

みみつ中央通信

一九五九年「〇〇総会で平沢和重が東京招致の演説を行った際、

「日本では学校の授業でオリンピックを教えており、オリンピック精神を全国民が理解している」

と、当時の教科書（「五輪の旗」学校図書小学校国語教科書6年下）の一節を読んでアピールした。それは、

「オリンピック、オリンピック。こう聞いただけで私たちのこころはおどります。」（五輪の旗）

と記載されている。これが決め手となり、一九六四年のオリンピックの開催地は東京に決まった。

そして今年。本来なら東京オリンピック二〇二〇が開催されているはずであった。

しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、来年に延期になった。

先日、新国立競技場から白血病という大きな病気に

なった、競泳選手の池江璃花子さんが世界に向けてメッセージをおくった。池江さんは、オリンピックやパラリンピックは、アスリートにとって特別なもの。その大きな目標が、目の前から突然消えてしまったこととは、アスリートたちにとって言葉に出来ないと言っている。池江さんは、自分の病

気のこと添えて、思っていた未来が一夜にして別世界のように変わる経験をし、それは、とてもきつい経験だったとも言っている。

そんな中でも、救いになったのはお医者さんや看護師さんなど沢山の医療従事者の方に支えていただきながら、いかに大変なお仕事をされているのかを実感し、感謝

している。しかも今はコロナという、新たな敵とも戦っているのだ。本当に感謝しかない。

今から一年後。オリンピックやパラリンピックが開催される世界になっていたらどんなに素敵だろう。一日でも早く、平和な日常が戻ってきて欲しいと心から願うばかりだ。

スポーツは、人に勇気や絆をくれる。苦しいとき、辛いときこそこそ、元気がもら



校長 鈴木利明

逆境からはい上がるための希望の力

えるような気がする。そして、前へ前へと進む力になっていく。

来年の今頃、そして今からコロナの影響でどうなるのか分からないが、オリンピックが単なる一年の延期では無く、「プラスワン」と考える。それは、未来志向で前向きな考え方だと思う。

そして、一方で思うのは、逆境からはい上がるって、一方では、どうしても希望の力が必要だということ。希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる。池江さんの場合は、もう一度プールに戻りたいというその一心でつらい治療を乗り越えたんだと思う。

そもそも逆境とは、苦勞の多い境遇。不運な境遇である。逆境という言葉に似て逆風がある。スキーのジャンプでも、飛行機の離陸でも逆風がないと飛距離は出ないし、離陸もスムーズにいかない。人生、逆風だらけだと困るが、少しぐらいの逆風があったほうが歓迎されるのだ。波や風が立たないで、舟は進まない。

人は、何かをしようと計画すると、必ず逆の風を与えてくれる人や環境に出くわす。これは、自分にとって、本気かどうか覚悟を決めているかを試していることにもなる。本気だったら、逆風があった方が人として成長するからだ。それこそ、何かをしようと計画して提案し、誰も何も言ってくれないのは寂しいものだ。

逆風だって逆光だって、それを利用してのも、面白い。つまり、逆風を敵だと思わないで、味方になれば良いからだ。

言葉だって同じで、ネガティブな言葉をあびせられてばかりいては、人は落ち込んでばかりになる。だから、自らいつもポジティブな言葉を使う習慣を身に付ける。すると、ネガティブな言葉は寄ってこなくなる。

人は、生きている証として、嫌な事や悲しい事もある。それは、すべていい日のためにあるからだ。そのために、何かをしようとして先ずは、歩み出す力が必要になる。それが「希望の力」だ。

新型コロナウイルスの影響で一年後もどんなことになるのか、誰にも分からない。分からないからこそ、悲観的にならないで、前向きに考えよう。一年後、東京という地で希望の炎が輝いて欲しいから。

優勝おめでとう!

野球部 女子バレーボール部

令和2年7月24日～26日

日向地区中体連

新型コロナウイルスの影響を受け、本年度の中体連は、例年通りの県大会は行わず地域ごとの開催となりました。生徒達は大会が実施される事への感謝の気持ちを全力に出し、あきらめないプレーの連続でした。大会の結果は、野球部（優勝）、女子バレーボール部（優勝）、男子卓球部（準優勝）、女子テニス部（敗退）という結果でした。女子テニス部は、2年生主体のチームですので、これから、期待しています。

スポーツの世界には、必ず、勝ち負けは付いてきます。トーナメント戦になると、一度も負けのないチームは一つだけです。でも、敗れて消えたチームも負けた回数はたったの一度だけです。そして、わざと負けるチームはいません。わざとミスをする選手もいません。みんな、必死になって、あきらめず、勝ちたい気持ちで一つになって戦うのです。だから、観ている人は感動します。今大会は、そんな素敵な勇姿を見ることができました。ありがとう。



携帯安全教室



なぜ、携帯安全教室をしなければいけないのか。何のために、携帯を持つ必要があるのか。携帯を持たなかったらどうなるのか。正しい答えなんて無いと思います。人それぞれに考え方や環境が違うからです。

携帯安全教室で学んでほしかったことは、使い方一つで、善悪どちらにも転ぶということです。正しい使い方が出来れば、非常に便利な道具で、人を幸せにすることもできます。

正しく使うためには、携帯を使いこなす技術ではなく、心です。心を磨いてください。信じています。